



Makers-Hub・CyTOF® ウェビナー

シングルセルタンパク質解析・新たな自己免疫性ぶどう膜炎治療法の開発へ

ウェビナー開催日時

2024年 4月26日 (金)
午後 1:00 - 2:00

ご登録



https://bit.ly/sbio_w

Webinarのご登録と同時にMakers-Hubへご登録をさせていただきます。

Makers-Hubとは？



Questions?

Please contact:

Info-japan@standardbio.com

スタンダード・バイオツールズ株式会社

Message

今回のウェビナーは、山口大学大学院 医学系研究科ゲノム・機能分子解析学講座、柴田健介先生により、自己免疫性ぶどう膜炎にフォーカスしたご研究についてのご講演を頂きます。

自己免疫性ぶどう膜炎は、治療法がまだ確立されておらず、それらの患者に対しては、ステロイドを用いて炎症を抑えるための対処療法のみに限られています。したがって、再発した場合、失明の可能性もあり、新たな治療法の開発が求められています。（ぶどう膜：虹彩・毛様体・脈絡膜の3つをまとめて呼ぶ総称。）

今回、自己免疫性ぶどう膜炎の発症前後や治療中のヒト末梢血サンプルを用いて、34項目のタンパクをターゲットとし、病態と相関関係を示す網羅的な免疫細胞のプロファイリングを、CyTOFにて行いました。CyTOFの解析により、特定のサブセットが、発症した際の治療方針などを決めていく上で重要であることが示唆されています。また、CyTOFのメリットでもあるセルバーコードを使用されており、希少疾患で貴重なサンプルの測定方法についてもお話を頂きます。

柴田先生は、製薬会社で創薬研究をされた後、アカデミアで、感染症、自己免疫疾患のご研究と幅広くご研究されています。免疫学分野のみならず、その他様々な分野でハイパラメーターによる高い深度の解析をご検討の方々にも是非ご聴講いただければ幸いです。

なお、本ウェビナーは京都大学と共催で実施しますが、座長の京都大学「医学領域」産学連携推進機構の鈴木特定教授からは、CyTOF技術全般に関するアップデートされた情報やノウハウを集約している「Makers-Hub」についてもご解説を頂きます。

Guest Speaker

CyTOFを用いた自己免疫疾患における免疫制御機構の解明

山口大学大学院医学系研究科ゲノム・機能分子解析学講座講師
大阪大学世界最先端研究機構免疫学フロンティア研究センター
招聘研究員
九州大学医学部医学研究院眼科学分野 共同研究員

柴田 健輔 先生



Moderator

京都大学大学院医学研究科
「医学領域」産学連携推進機構

特定教授 鈴木 忍 先生

